

平成23年度 京・地域福祉パイロット事業実績報告一覧

事業名	実施主体
1 チラシでコンニチワ	大將軍民生児童委員協議会
2 「学びの場・語りの場・つながりの場」が生み出す独居高齢者の組織化支援プロジェクト	紫野カルチャー亭運営協議会
3 地域福祉活動をはじめとした地域づくりにおける個人情報取り扱いの検討と地域の実情に即した分かりやすい手引きの作成・普及	北区地域福祉推進委員会
4 上京区赤ちゃんお祝い訪問プロジェクト	上京区赤ちゃんお祝い訪問プロジェクト実行委員会
5 日本語を母語としない家族の子育て支援 ～地域・人とのつながりから、視野を広げて子育てを楽しもう～	Jafore（ジャフォール）～日本語を母語としない家族のための子育て支援チーム～
6 会食のつどいと地域サロン（居場所づくり）	さくら（会食のつどい）
7 安朱ふれあい訪問	山科区安朱民生児童委員協議会
8 学区内大型共同住宅における自治会設立、自治会増強、既存自治会支援、地域課題（高齢化、子育て支援）の解消	安朱学区自治連合会
9 下京歩歩（ぽっぽ）塾	下京歩歩（ぽっぽ）塾運営委員会
10 葛野のどか会 地域福祉パイロット事業	葛野のどか会
11 京北にここにこ・わくわくネットワーク事業	京北にここにこ・わくわくネットワーク協議会
12 住吉学区社会福祉協議会 住吉シルバーサポーター事業	住吉シルバーサポート
13 茶房 やどり木	春日野学区社会福祉協議会
14 男性介護者支援事業	男性介護者を支援する会

事業名	地域福祉活動をはじめとした地域づくりにおける個人情報の取扱の検討と地域の実情に即した分かりやすい手引きの作成・普及
実施主体	北区地域福祉推進委員会
対象地域	北区（小地域）

事業実績

1 事業内容

災害時における配慮を要する方への迅速な情報提供と支援活動を行うに際しては、普段から状況を的確に把握することが必要であることから、個人情報の適正な取扱いを調査、研究し、区内の状況を踏まえた分かりやすい手引きを作成、発行。

2 実 績

①プロジェクトチーム（PT）での調査検討
プロジェクト会議において検討（４・６・１２・１月開催）

②関係機関・団体の意見聞き取り
・個人情報に取り扱いに関する調査の実施
・福祉に関する意見交換会の実施

③手引きの作成
「個人情報の取り扱いに関する手引き」の発行（６００部）

④手引きの普及・啓発（平成２４年度も継続実施）
・北区地域福祉推進委員会において説明
・学区社協会長会議において説明
・学区民児協会長会議において説明

3 活動成果

・様々な地域の諸団体を対象に意見交換会や調査活動を実施した結果、地域福祉活動を展開する際の個人情報の取り扱いに関する課題や問題点が明らかになった。
・課題や問題点について、プロジェクト会議や北区地域福祉推進委員会等で議論したことにより、専門職等の関係者も共有することができた。また、取り扱いについて、より一層の理解を深めることができた。
・関係者と共に、話し合いを重ねてきた経過が大変、有意義であり、「オール北区」で地域福祉の推進を図っていく機運が高まった。

4 事業経費等

助 成 金 額 ： １５０，０００円
事業経費合計： ３３１，８００円
〔内訳〕 冊子印刷費： ３３１，８００円

5 今後の活動

今回作成した「個人情報の取り扱いに関する手引き」を用い、会議や研修会等、様々な機会を通じて、個人情報の取り扱いに関する正しい理解を広げるために、各種団体等を対象に学習会を実施していく。

事業名	上京区赤ちゃんお祝い訪問プロジェクト
実施主体	上京区赤ちゃんお祝い訪問プロジェクト実行委員会
対象地域	上京区（小地域）

事業実績

1 事業内容

「こんにちは赤ちゃん訪問」を行う際に、保健師が主任児童委員による訪問を提案し、希望があった家庭を主任児童委員が訪問して、お祝い品を贈り、地域内の子育て情報の提供や相談を受けることで、子育て世帯と地域を結び付け、地域ぐるみで子育てを応援。

2 実 績

上京保健センターの保健師、助産師等が「こんにちは赤ちゃん訪問」をする際に、上京区子育て情報冊子を手渡し、主任児童委員によるお祝い訪問について説明する。
子育て家庭から希望を受けて、その地域を担当する主任児童委員がお祝い品を持って訪問し、地域の子育て情報を伝えるとともに、地域の地蔵盆や子供祭りなどの参加を呼び掛けた。また、サロンや地域子育てステーション、相談機関等に同行する、あるいは連絡するなど、家庭が参加しやすい環境づくりに努めた。

3 活動成果

上京区で赤ちゃんを出産した家庭を主任児童委員が家庭訪問し、誕生を祝い、地域で温かく包み込むとともに、子育て情報等を伝えることで、子育て家庭の孤立化を防ぎ、育児不安の軽減を図ることによって、児童虐待の未然防止につなげることができた。

4 事業経費等

助 成 金 額 ： 1 5 0 , 0 0 0 円
事業経費合計： 3 7 8 , 0 3 0 円
〔内訳〕 需用費： 1 9 8 , 0 3 0 円、調査費： 1 8 0 , 0 0 0 円

5 今後の活動

身近な地域における協力・共同の関係を深め、地域の人たちのつながりの中で、子育て家庭を温かく見守るまちづくりに向けて、今後、より一層充実させていく必要がある。

事業名	日本語を母語としない家族の子育て支援 ～地域・人とのつながりから、視野を広げて子育てを楽しもう～
実施主体	Jafore（ジャフォール）～日本語を母語としない家族のための子育て支援チーム～
対象地域	左京区（小地域）

事業実績

1 事業内容

育児に必要な情報収集が困難で、地域社会から孤立しがちな状況にある外国籍の子育て世帯に対して、インターネットによる多言語での情報発信や子育て広場を開催。

2 実 績

日本語を話さない子育て家族を応援する活動を通じて、地域社会のつながりを作り出すとともに、世界と日本の子育てについて、広い視野で考えるきっかけとなる場「多言語子育てひろば」を開催（平成23年度は10回開催）。多言語での絵本の読み聞かせや、歌・世界のダンス体験をしたほか、参加者自らが地図に書き込み「地域子育て情報マップ」を作成した。また、「世界の出産」、「子育て中の語学学習」、「災害の備え」といったテーマで情報交換を行った。「ひろば」で話し合ったことを「多文化子育てハンドブック」にとりまとめ、300部を発行・配布した。Jaforeのホームページ上でも公開。

3 活動成果

「多言語子育てひろば」には毎回、多数の参加者（平均45名、23年度は延べ400名以上）があり、15箇国以上の国籍を有する家族が参加した。日本人家族にとっては、外国での出産、子育て環境について学ぶことにより、子どもも親も多様な価値観を学ぶ楽しさを知ることができた。日本語を母語としない家族にとっては、「ひろば」が日本の生活習慣や文化、また日本での日常会話を学ぶ機会になっており、地域とのつながりを実感できる場ともなった。さらに、「ひろば」を通じて母語を話す家族同士が知り合いになることで、外国人が自分の母語で情報交換やおしゃべりをすることができ、孤立感や不安感を解消する機会ともなった。「多文化子育てハンドブック」は多くの子育て中の家族、支援者の目にとまり、多くの感想が寄せられ、ホームページにも多数のアクセスがあった。

4 事業経費等

助 成 金 額 ： 150,000円

事業経費合計：374,000円

〔内訳〕 図書費：89,521円、消耗品費：41,737円、旅費交通費：39,680円、印刷製本費：172,720円、

通信運搬費：30,342円

5 今後の活動

「多言語子育てひろば」を継続開催し、更には、多文化共生社会の中で貴重な資料となり得るものとして、「ひろば」で話し合った内容、外国人が知りたい子育て情報、子育てで必要な日本語表現、又は異国での子育てについて感じることなどをまとめ、ウェブ上や冊子配布により公開していきたい。また、「多言語子育て情報サイト」の発信にとどまらず、「多言語子育て情報サイト運営実践講座」のような形態で公開し、蓄積できた経験を広めていきたい。さらに、幼稚園申込み時の付添い、予防接種時の通訳など、言葉のサポートを必要とする家族が多いため、サポート事業も充実させ、対応できるスタッフを増やしていきたい。今後の運営の安定性、継続性を高めるために、活動への賛助者を広く募っていく。

事業名	会食のつどいと地域サロン（居場所づくり）
実施主体	さくら（会食のつどい）
対象地域	東山区月輪・一橋・今熊野学区（小地域）

事業実績

1 事業内容

栄養士や調理師を含むボランティアが主体になり、一人で食事をとる独居高齢者を対象に、食事づくりを行い、共に会食をしながら、交流する場の提供や季節ごとの催しを開催。

2 実 績

月輪中学校区で、独居高齢者を対象に毎月第2日曜日に栄養士や調理師を含むボランティアが季節の旬の食材を用いた食事づくりを行い、会食する会を3箇所で開催した。会食会に参加できない高齢者には個配も実施した。また、高齢者の身体面での健康づくりの手助けとなるよう、会食後に筋トレ教室等を開いたり、手作りの「会食のつどいニュース」に栄養に関する記事を掲載した。会食会には1箇月平均で70名ほどの参加があった。いつも参加されている方が来られない場合は、「ニュース」を届け安否確認も兼ねるようにしている。

3 活動成果

単に配食するのみではなく、孤食を防ぎ、安心安全で旬のおいしさをの心を持って、共に会食する居場所を設けたことにより、住み慣れた地域で住み続けられる相互の助け合いや地域密着型の活動の輪が広がってきた。

4 事業経費等

助 成 金 額 ： 150,000円

事業経費合計：499,139円

〔内訳〕 材料費：233,613円、会場光熱費：41,500円、配送費：11,660円、消耗品費：19,623円、文具・雑品費：9,473円
印刷費：10,760円、通信費：4,880円、報償費：4,000円、雑費：4,800円、什器・備品費：158,830円

5 今後の活動

参加者の希望を聞き、関心のあるテーマの講演会を開くとともに、会食以外のイベントを企画するなど、高齢者が住み慣れた地域の中で住み続けたいという願いを少しでも叶える手助けとなるような活動を通して、地域における支えあいや交流を広げていきたい。

事業名	安朱ふれあい訪問
実施主体	山科区安朱民生児童委員協議会
対象地域	山科区安朱学区（小地域）

事業実績

1 事業内容

高齢者世帯を訪問し、状況やニーズを把握して、見守り活動を行うとともに、急病等の緊急時に迅速かつ的確な対応ができるよう、個々の医療情報や緊急連絡先をまとめたものを、冷蔵庫に保管していただけるよう、容器に入れた「緊急キット」を制作。

2 実 績

民生委員・老人福祉員が互いに協力し、担当区域の高齢者宅の訪問活動を行っているが、その際、「単身高齢者」、「高齢者のみの世帯」、「家族はいるが昼間独居世帯」と世帯により内容を変えた「アンケート」をお願いし、医療情報など、身体状況のみならず、様々な心配ごとにも回答いただいた。その中で日頃から不安を感じ、話題になっていた救急キットを高齢者世帯に配布した。当学区での配布事業が契機となり、山科区全域で訪問・配布する事業（山科“きずな”支援事業による助成）へと展開することとなった。

3 活動成果

キットを設置した高齢者から「これで万一、自宅で倒れても救急隊に迅速・正確に自分の状況を伝えることができる」と安堵の声が多く寄せられた。設置の話を聞いた周囲の高齢者が住まわれるお宅から、自分も設置したいと希望があり、配布予定数が増加した。

4 事業経費等

助成金額：50,000円

事業経費合計：100,696円

〔内訳〕 緊急キット作成費：61,499円、消耗品費：35,667円、印刷費：2,530円、施設使用料：1,000円

5 今後の活動

訪問事業は今後も継続させるが、単なる安否確認だけではなく、訪問時に「キット」に記載された内容に変更がないか、についての確認作業も行いたい。他学区へも紹介し、取組を拡大させていきたい。

事業名	学区内大型共同住宅における自治会設立、自治会増強、既存自治会支援、地域課題（高齢化、子育て支援）の解消
実施主体	安朱学区自治連合会
対象地域	山科区安朱学区（小地域）
事業実績	
1 事業内容	
自治会が弱体化しつつある大型共同住宅では、高齢者世帯が増加し、普段からの安否確認や災害時における被災確認が十分に行えないといった諸課題があることを踏まえ、自治会への加入促進のための住民を対象に茶話会や落語会等を開催。	
2 実 績	
①落語会及び茶話会の実施（平成23年6月6日 ラクトB棟内 40名参加） ②交流会（平成23年6月16日、9月27日、10月30日、11月4日、24年3月7日 延べ66名参加） 安朱夏祭りへの参加や近隣自治会との交流を促すが、ラクトB棟内で自主的な交流を深めたいとのことで、自治連役員も参加して交流会を実施した。 ③ふれあいコンサートの開催（平成24年1月16日 ラクトB棟内 30名参加）	
3 活動成果	
平成24年3月25日に参加者30名により、「ラクトB棟自治会」設立が決まる。これまで13年間にわたり、住宅部会（管理組合）しかなかったラクトB棟に自治会が誕生することにつながった。	
4 事業経費等	
助成金額：60,000円 事業経費合計：131,251円 〔内訳〕 会議室使用料：22,800円、消耗品費：3,650円、印刷費：3,000円、出演者謝礼：80,000円、落語会・茶話会・コンサート茶菓代：21,801円	
5 今後の活動	
ラクトB棟自治会の安朱学区自治連合会への加入促進を図る。今回の事業の軸となった「落語会」、「コンサート」等のイベント活用による学区内の様々な交流（地域世代・団体間）を仕掛け、「きずな」形成につなげたい。	

事業名	下京歩歩（ぽっぽ）塾
実施主体	下京歩歩（ぽっぽ）塾運営委員会
対象地域	下京区（小地域）
事業実績	
1 事業内容	
地域住民の健康づくりを推進のため、地域の各種団体が大学と連携をとり、歩数計を使って得られたデータを分析するとともに、参加者に運動処方を実施し、区内全域を対象に、ウォーキング活動を実施。	
2 実 績	
毎月第1水曜日・木曜日に歩数の集計を行い、延べ1, 564人の地域住民が参加した。集計時等に健康情報に関するアドバイスを掲載した「歩歩塾だより」を配布した。	
3 活動成果	
「健康日本21」において、国が定める健康作りのための目標値をクリアすることができた。 男性 10,085歩/日（目標値9,200歩/日） 女性 9,336歩/日（目標値8,300歩/日） 睡眠アンケートの結果、月当初に改善が必要と判断された方々の得点が、歩歩塾を1年間続けることで良くなった。	
4 事業経費等	
助成金額：150,000円 事業経費合計：1,271,643円 〔内訳〕 運営委託費：1,000,000円、備品購入費：175,686円、会場使用料：37,500円、缶バッジ作成費：9,450円、切手購入費：4,540円、懸垂幕作成費：44,467円	
5 今後の活動	
23年度の活動成果を踏まえ、参加者により満足していただける内容にすることで、塾生を増やしていく。	

事業名	葛野のどか会 地域福祉パイロット事業
実施主体	葛野のどか会
対象地域	右京区葛野学区（小地域）
事業実績	
1 事業内容	
大学とも連携しながら地域とのつながりを構築するため、子育て世帯から高齢者世帯まで、地域で孤立しがちな方々に対して、幅広く支援活動を展開。	
2 実 績	
①高齢者ふれあい広場（平成23年4月10日） ②高齢者配食サービス（平成23年6月，11月，24年2月） ③学区福祉まつり ④会員研修会 ⑤子育て・多胎児サロン ①～⑥の平均参加者数：150名～350名	
3 活動成果	
地域行事への参加，協力等により地域に根差した活動が住民に好評を博した。	
4 事業経費等	
助 成 金 額 ： 40,000円 事業経費合計： 80,752円 〔内訳〕 事業費：41,000円，研修会費：20,000円，会場費：8,000円，備品費：11,752円	
5 今後の活動	
会員一人ひとりの意見を聞き，少しでも会が充実することと，地域の輪が広がるよう協力していく。高齢化する会員と若い方々に呼び掛け参加を促したい。	

事業名	京北にここ・わくわくネットワーク事業
実施主体	京北にここ・わくわくネットワーク協議会
対象地域	右京区京北地域（小地域）
事業実績	
1 事業内容	
住民同士の結び付きを再構築するため、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、学習会、交流会を開くとともに、支援機関等の情報を一元化した広報誌を京北地域で配布。	
2 実 績	
①子育て支援：子育て講演会「わらべうた」（23年6月10日），食べるの大好きっ子教室（調理実習）（10月18日），クリスマス会（12月13日），子育て講演会「絵本の読み聞かせ」（24年3月9日） ②高齢者支援：高齢者リフレッシュ事業・出前講座（23年6月29日，9月29日，24年2月29日），高齢者リフレッシュ講演会（23年11月29日） ③合同事業：ふるさとまつりイベント参加，毎週火曜日に「にここ広場」開催 全事業延べ参加者数：1，697名	
3 活動成果	
広報誌「にこわくだより」を毎月発行し，全戸配布することができ，開催事業に参加していただくための啓発が十分に行えた。その結果，参加者の増加につながり，学習や交流の場を提供することができ，それぞれが抱えている不安や悩み，孤立を軽減することに結び付いた。	
4 事業経費等	
助成金額：100，000円 事業経費合計：219，093円 〔内訳〕事務費：24，230円，会議費：2，600円，事業費：192，263円	
5 今後の活動	
関係機関，団体のネットワークをより強化することにより，京北地域の子育て中の母親や高齢者の方の居場所を提供することを目指していきたいと考えている。居場所があることにより，それぞれの心の安定を図る手助けになれるよう，活動を展開していきたい。	

事業名	住吉学区社会福祉協議会 住吉シルバーサポーター事業
実施主体	住吉シルバーサポート
対象地域	伏見区住吉学区（小地域）

事業実績

1 事業内容

災害時に配慮が必要な独居高齢者を町福祉委員とシルバーサポーターが訪問し、身体の調子や困りごとを聞き取り、緊急時に役立てる安心カードとしてまとめた。

2 実 績

平成23年8月から学区社会福祉協議会、町福祉員、地域包括支援センターが順次、独居高齢者宅を訪問し、安心カード・チラシの配布を行った。消防署員の同行が得られるケースもあり、幅広い連携により見守り活動を展開した。また、配布した高齢者にアンケート調査を行い、感想などを聞き、今後の参考とした。

訪問した高齢者延べ1,100名、参加サポーター・町福祉員延べ120名

3 活動成果

- ①独居高齢者の方々が訪問する度に、表情が穏やかになり、話し方が優しくなり安心・安堵感が感じられるようになった。
- ②独居高齢者宅を訪問することを目的として、役員・町福祉員が一つのことに集中することで結束力ができてきた。
- ③区社協、地域包括支援センター、地域医療機関、消防署、警察、地域各種団体とも積極的に交流をして、協力や情報収集等はできるようになってきた。

4 事業経費等

助 成 金 額 ： 1 5 0, 0 0 0 円

事業経費合計：305, 826円

〔内訳〕 会場使用費：42, 000円、ユニホーム作成費：167, 890円、活動用資材費：46, 420円、印刷経費：34, 136円
通信運搬費：3, 380円、会議費：12, 000円

5 今後の活動

- ①独居高齢者宅を定期的に訪問して安否確認や現状把握を行う。
- ②自治会に入っておられない方たちにアプローチする。
- ③独居以外の高齢者（夫婦のみ・同居人あり・身体障害者等）を含めた活動を展開したい。
- ④住吉学区全住民が住んでよかった安心・安全なまち、「住吉」を目指す。

事業名	茶房 やどり木
実施主体	春日野学区社会福祉協議会
対象地域	伏見区春日野学区（小地域）

事業実績

1 事業内容

子どもや高齢者を地域全体で見守るため、民生児童委員、老人福祉員等が連携し、子どもから大人までが気軽に参加してもらい、世代を超えた地域住民がふれあえる場をつくった。

2 実 績

町内集会所を利用し、子どもから高齢者までの幅広い年齢層の地域住民が集い、交流する場である茶房を定期的に開店した。
 茶房では、自主的に希望された複数の住民の方がボランティアスタッフとして活動し、主にコーヒーなどの飲み物を低廉な価格で提供することで、家族ぐるみ、近所で誘い合って気軽に来ていただくことができた。
 開催日は、午前10時30分に開店するが、既に開店前から、茶房を心待ちにされている方が多数来られ、時間を追うごとに来店者は増え、午前11時には店内が満席の状態で、店の外にまで並んで待っている方もおられるほどの盛況が続いていた。開催時間中（午前10時30分～午後4時）は、来店者が途切れることはなく、集いの場を通して住民同士の輪が広がった。

3 活動成果

茶房で多くの地域住民が集い、多世代交流が実現したことは、高齢者の閉じこもり防止につながるだけでなく、民生委員・児童委員、老人福祉員をはじめ、各種団体の住民も参加して、高齢者や子どもたちと語らい、情報交換を行う拠点づくりに結び付いた。このことによって、地域ぐるみで取り組む、見守り支援の充実と住民同士の「絆」を強めることができた。（利用者延べ240名、スタッフ延べ40名）

4 事業経費等

助成金額：70,000円

事業経費合計：168,421円

〔内訳〕 什器、食器購入費：25,132円、備品購入費：43,656円、会場使用料：22,000円、光熱水費：4,000円、材料費：34,563円、会場設営費：10,378円、消耗品費：23,692円、広報費：5,000円

5 今後の活動

引きこもりや寝たきりの予防、そして我が子の虐待などを防ぐため、少しでも手助けができるよう、また住民の安らぎの場として、乳児を連れて気軽に来ていただけるような幅広い年齢層の方々の語らいの場となるよう、活動を定期的に続けていきたい。

事業名	男性介護者支援事業
実施主体	男性介護者を支援する会
対象地域	全市域（広域）
事業実績	
1 事業内容	
男性介護者相互の情報交換や支え合いの活動により、課題を共有して孤立化を防ぎ、介護負担の軽減を図った。	
2 実 績	
・男性介護者のつどい「TOMO」を毎月第2週の水・木曜日に開催するとともに、会報を毎月発行し、ホームページ上で公開した。 ・男性介護者による料理教室を兼ねた昼食会（23/4/29），講演会（23/9/3），お弁当教室（23/11/23），研修会・情報交換会（23/12/21，24/1/18），料理教室（24/2/21），会員へのアンケート実施（24/2/20），ホームページ作成（24/3/10），年報発行（24/3/28），会員へ救急安全キットを配布（24/3/30）	
3 活動成果	
・積極的な活動により，メディアに取り上げられ，広報成果が上がり，多方面から男性介護者がTOMOに参加された。他団体の催しにも参加することで，発言の機会を得て知名度を上げることができた。TOMOに地域包括支援センターの相談員や介護職に携わる方も参加されるなど，多様な意見交換の場となってきた。	
4 事業経費等	
助 成 金 額 ：300,000円 事業経費合計：615,693円 【内訳】 会場使用料：242,580円，会議費：42,000円，分担金：5,000円，材料費：5,928円，広報費：52,604円，講師謝金：59,800円，救急キット購入費：2,625円，消耗品費：8,076円，印刷費：123,120円，通信費：43,120円，交通費：30,000円，雑費：840円	
5 今後の活動	
男性介護者が孤立せず，安定した生活をするための社会的なバックアップや受皿を増やすため，行政や地域包括支援センター等とも更に連携をしていき，男性介護者がどこに行けば適切な相談や支援を受けられるのかをアドバイスできるようになれば良い。 地域に出て，悩みごとなどの聞き取りができるスタッフの養成や自宅で悪戦苦闘している男性介護者を掘り起こすといった活動を積み重ねる中で，孤立し，困っている男性介護者を，人と人のつながりで支援していきたい。	